

2024

令和6年1月24日

第56号

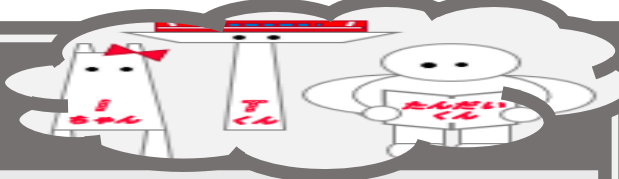
(通算102号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!



1 卒業研究に奮闘する学生



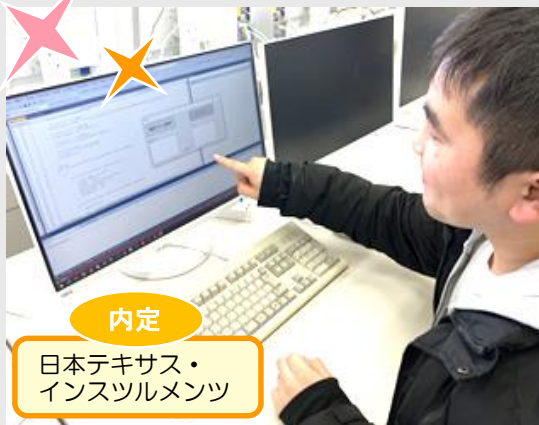
第二学年の卒業研究がスタートして1ヶ月、設定した課題解決に向け奮闘しています。3人の学生に研究内容を伺いました。

●三木悠矢さん（水戸葵陵卒）情報システムコース

○研究テーマ：「※ APIを活用した短大HPの自動翻訳システムの開発」 ※API: Application Programming Interface

○ポイント：大学校化やグローバル化に対応し、HPの翻訳自動化を支援し業務の効率化を図る。

○本学での学び：実践的なシステムのプログラミングや、開発フローを学ぶことができました。電子工作やロボット制御の理解も更に深まる学びができたと思います。



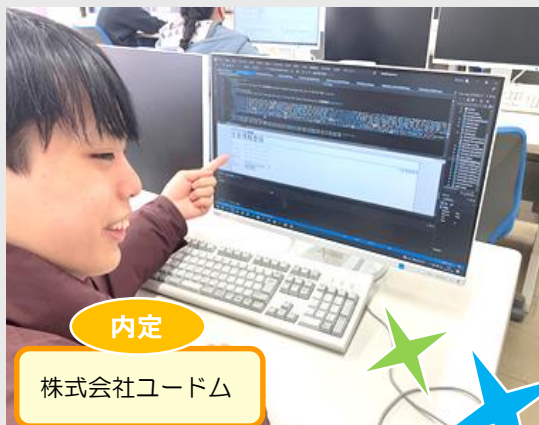
内定
日本テキサス・インスツルメンツ
↑ 翻訳の様子を説明する三木悠矢さん

●中村羽玖さん（勝田工卒）セキュリティコース

○研究テーマ：「校内情報を一元管理するWebシステムの開発」

○ポイント：校内ネットワークを活用し、時間割変更など、学生と教師との連絡調整を円滑にするシステムを開発しています。

○本学での学び：システムの設計からコーディングまで、本格的なシステム開発やそのプロセスを学ぶことができました。



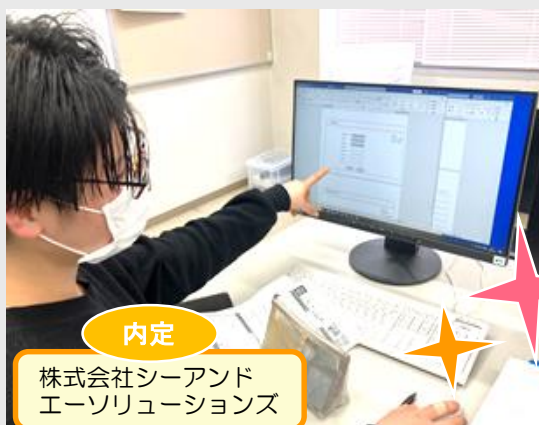
内定
株式会社コードム
↑ プログラムを説明する中村羽玖さん

●今川葉菜さん（石岡商卒）生産管理コース

○研究テーマ：「ソフトウェア開発における※QCD向上手法」 ※QCD: 品質Quality・コストCost・納期Delivery

○ポイント：ソフトウェア開発時のコストや、納期をいかに抑えつつ質の高いシステムが開発できるかを研究しています。

○本学での学び：ここでは、IT企業に必要とされる「システム設計」「生産管理」「業務フローの作成」など実践的に学ぶことができました。



内定
株式会社シーアンドエーソリューションズ
↑ QCDについて説明する今川葉菜さん

3 自己実現に向けて

1月19日(金)、ハローワーク水戸のご協力を得て、就職支援セミナーが実施されました。

前半は、就職活動の流れについて説明がありました。自己実現に向けた、確かな自己理解が大切と話されていました。また、履歴書の書き方や面接の進め方、それらの注意点について学びました。後半は、就職活動におけるマナーについても学んでいました。

受講した一戸虹都美さん(水戸三卒)は「就職のイメージがより具体化できました」皆川航太さん(水城卒)「企業への熱意や意欲が伝わる、履歴書を書きたい」と嬉しそうに話していました。



↑ 就職支援セミナーの様子

2 二十歳を迎えた学生達



新年を迎え、二十歳を迎えた二年生6人の学生に、新春の抱負と今年の目標、更に、学んだIT技術の活用方法についてインタビューしました。

	青山莞大さん (下館工卒)	中村羽玖さん (勝田工卒)	中熊袖香さん (水戸二卒)	小橋未来さん (鉦田一卒)	今川葉菜さん (石岡商卒)	山本勤太さん (常磐卒)
Q1 二十歳を迎えての抱負は？	○ 何事に対しても感謝の念を忘れないこと。	○ いよいよ社会人となるので、一つ一つの仕事に責任を持って行動したい。	○ 成人としての自覚を持ち、日々前向きに過ごしていきたい。	○ 一人の大人として行動できるよう、責任感を持って生活していきたい。	○ 成人として、しっかり働き、収入を得たいと思います。	○ 大人としての行動と、健康第一で過ごしていきたい。
Q2 今年の目標は何ですか？	○ 積極的にチャレンジし、経験して価値観を広げ学びたい。	○ IT技術の向上のため、IPAの応用情報技術者試験や高度試験に合格したい。	○ 社会人としての生活に慣れ、デジタル技術により、多くの人々を助けられる技術者になる。	○ 人々の役に立つ「ものづくり」ができる、システムエンジニアになる。	○ コミュニケーションを大切に、職場に馴染んでいきたい。	○ 責任ある大人として働き、学びでも応用情報処理技術者試験を取得したい。
Q3 IT技術をどう活用しますか？	○ この大学で学んだ知識を社会に活かし、更に学び続けたい。	○ 健常者は勿論障害のある方や高齢者も便利に生活できるよう活用したい。	○ ここで学んだ情報セキュリティに関する知識を生活にも役立てていきたい。	○ 忙しい日々を、便利なITの機能を活用し効率的にしていきたい。	○ プログラムは勿論、学んできた設計手法も業務に活かしていきたい。	○ ここで学んだ知識を、積極的に社会に活かしていきたい。

